

ナシせん定枝のフレールモアによる園内処理技術

ナシでは、せん定枝が10a当たり年間500~700kg発生し、その多くが圃場外に持ち出され焼却されています。このため、ナシせん定枝をフレールモアで、ほ場内で粉碎、すき込むことにより、ほ場外に残渣を出さない安定したゼロエミッション技術を開発しました。作業の省力化、経済的にも有利な方法です。

ただし、紋羽病発生土壌においては、紋羽病の拡大につながる恐れもあるので、園外に持ち出し、チップにして長期間寝かせて堆肥化してから、ほ場に還元しましょう。

(※病害虫防除技術担当の新技術情報「ナシせん定枝堆肥の循環利用に向けた白紋羽病発病危険度の判定」を参照)

フレールモアによる梨せん定枝粉碎



①せん定枝を樹間中央に直線状に並べる



②フレールモアで粉碎す



③飛び散った枝を熊手で中央部に寄せる



④再度フレールモアで粉碎



粉碎が不十分な場合、再度③④を繰り返す

表1 処理回数とチップの重量比較

	平均(g)
2回処理	0.475
3回処理	0.182
有意差	**

表2 土壌硬度とチップの重量比較

	平均(g)	土壌硬度(mm)
H25園研	1.148 c	7.7
H25騎西	0.805 bc	9.9
H25鴻巣	0.371 a	18
H26騎西	0.182 a	10.9

処理回数による粉碎精度の差は、園芸研究所内の試験において、せん定枝は、2回処理で平均0.475g、3回処理で0.182gの大きさとなり、3回処理でより細かく粉碎できることが確認されました。(表1) 土壌硬度を固めに保つことによって、チップの大きさを小さくできることがわかりました。(表2)

ほ場外に持ち出し、焼却するという従来のせん定枝処理にかかっていた時間と、フレールモアによる粉碎では、約三分の一の時間で処理できます。

また、経済面では、枝処理を雇用労力でやった場合と比べ、82.2%となりました。

※注意事項

- ・ 紋羽病発生園では、従来の通りせん定枝は、園外に持ち出してください。
- ・ 秋枝落として処理したせん定枝の基部は、太いので別途処理してください。